

有度山麓の麦つき唄

日本平は有度山というが、県立大学がある谷田地区を含めて、『麦つき唄』がこの山麓に残っている。この一帯は水が少ないので、麦をつくったが、戦後はほとんど作られなくなり、この唄も忘れられて殆ど消滅寸前である。麦の穂をしごいて臼に入れ、これを搗く(つく)のだが、その重労働の苦しさを紛らわすため歌われたのがこの唄。静岡弁である『よからず』、『見ておかず』とか、『麦を』を『麦よ』というのが面白い。なかなか明るく軽快な節である。今となっては貴重な唄なので紹介しておきたい。

『有度山麓の麦つき唄』

白金の へりとり臼を  
八臼ならべて 麦よつく 麦よつく  
八臼ならべて 麦よつく

谷田風土記

婿殿に着せたい着物は  
茶の葉のついたカタビラ カタビラ  
茶の葉のついたカタビラ  
(スラズント ズント ズント ズント)

夏はよいもの 庭で麦よついて  
エレしのびよづまを唄で呼ぶ  
(スラズント ズント ズント ズント)

なんとこの麦や つけたじゃないか  
エレよさもよからず 見ておかず

お月やちよいと出て 山の腰照らす  
銀のかんざし 髪よ照らす

(なお、希望者には、この採録テープを差し上げます。)

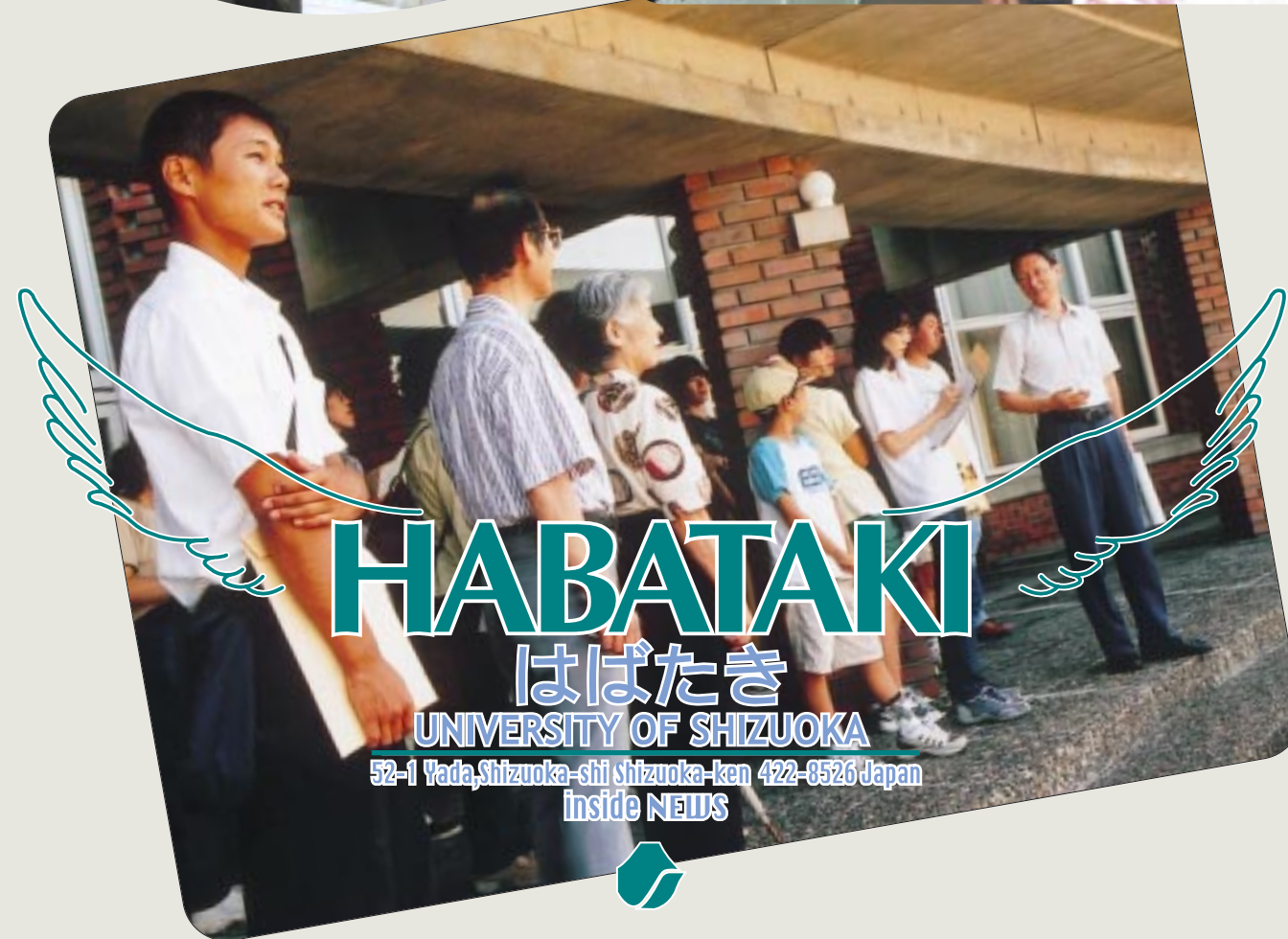
79

国際関係学部教授 高木 桂蔵

国際関係学部がオハイオ州立大学と英語研修合意

国際関係学部では、米国のオハイオ州立大学 (The Ohio State University) 日本研究所 (The Institute for Japanese Studies) と、夏期英語研修プログラム「静岡夏期英語研修プログラム」(Shizuoka Summer English Program, SSEP) の設立・運営について協議を重ね (研修修了者は「海外研修英語」の2単位取得が可能) 6月20日 (金) にオハイオ州立大学日本研究所の中山峰治所長が本学を訪れ、六鹿国際関係学部長とともに合意書に調印した。

今年度の夏期英語研修 (8月4日~8月22日) には、15名の学生が参加し、研修を無事に終え帰国した。



学内ニュース「はばたき」への寄稿を大歓迎!

教職員・大学院生の皆様の受賞、研究助成への採択、学会・研究集会の案内、クラブ・サークル、その他寄稿を積極的にお寄せ下さい。大歓迎します。

事務局経営課・企画スタッフ (管理棟2階) 法月あてにお願いします。

E mail: kijo4@gm.u-shizuoka-ken.ac.jp

企画・編集 静岡県立大学広報委員会 TEL 054-264-5103

静岡県立大学ホームページアドレス: http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp

CONTENTS

Table with 2 columns: Article Title and Page Number. Includes items like 'オープンキャンパス', '看護学部第2回公開セミナーを開催', '奨学金の授与', etc.



## オープンキャンパス開催

本学への入学希望者を対象とし、学部の説明や施設見学を行うオープンキャンパスが8月4日から6日まで開催された。説明会は各学部ごとに開かれ、薬学部、食品栄養科学部が8月4日(月)、国際関係学部、経営情報学部が8月5日(火)、看護学部が8月6日(水)に実施。参加者は3日間で1678名が参加した。

参加者は入学を希望する学部ごとに集合し、学部長や教員から学部、学科ごとの授業内容やその特徴、また、入学者選抜に関する説明を受けた後、

教員や学生の案内でグループごとに分れて学内を見学した。

学内見学では、研究室や実験室、実習室の見学、研究内容の説明、LL教室での模擬授業、コンピュータ実習室での機器操作、また在学生による専門コースの説明や、キャンパスライフの紹介などが行われた。

また、学生部に相談コーナーも設けられ、参加者は入試や、学生生活、留学などについて熱心に相談していた。



### 県民の日事業

明治9年8月21日に静岡県が誕生したことを記念し、平成8年度に制定された「県民の日」の諸行事が、8月21日(木)を中心に県内各地で開催された。本学では、大学構内見学会の「キャンパス・ツアー」と「環境科学研究所の一般公開」が行われた。

### 県大の探検ツアーを開催！「キャンパス・ツアー」

8月21日(木)の「キャンパス・ツアー」は、日頃から県大に関心を持っていただいている県民の皆様、県大のキャンパスを探検していただこうと開催している企画で、今年も県内各地から小・中・高校生からご高齢の方まで51名の参加があった。参加者は3グループに分かれて大学職員の誘導により各学部棟や図書館、体育館、学生ホールなどを見学した。看護学部の基礎成人看護実習室、地域看護実習室では教員による説明があり、食品栄養科学部の食品衛生学研究室では教員が日頃の研究内容を紹介した。またLL教室やコンピュータ実習室では模擬授業を体験するなど、参加者は県大の施設、設備や研究内容などに感心していた。参加者からは「ツアーに参加して入学したいという気持ちが高まってきました。がんばって勉強します。」「日常生活に関わる研究をされていて、大学の研究室を身近に感じる事ができた。」「楽しい時間を過ごし、学生の頃を懐かしく思い出しました。」などの声が聞かれた。



### 身近な環境問題を考えよう「環境科学研究所一般公開」

8月23日(土)に開催した「環境科学研究所一般公開」では、「身近な環境問題を考えよう」をテーマに、環境問題についての研究内容の理解を県民に深めてもらい、一般県民に親しみを持ってもらうため、13の研究室の公開、研究内容の展示、デモンストレーション実験の紹介などが行われた。143人の参加者があり、公開内容についても「身の回りの環境問題への関心が高まった」「さまざまな環境の研究があることが分かった」な

どの好評の感想をいただいた。





## ファーマカレッジ2003 「病気を治す薬の開発」

平成11年に我が国の科学技術を発展させる次世代の人材を養成する目的で文部科学省が開始した「ふれあいサイエンスプログラム」に薬学部の企画が採択され、以後薬学部では毎年夏休みに県内高校生を対象とした「ファーマカレッジ」体験学習プログラムを実施してきました。5回目の本年は「病気を治す薬の開発」をテーマに7月31日、8月1日の2日間実施されました。この「ファーマカレッジ」は、薬学部では、どのようなことを学べるのか、またどのような研究をしているのか？など高校生にくすりが開発されるまでの基礎的な実験から製剤までの各段階を大学院生、教員と一緒に研究室で体験してもらうのが特徴です。本年度は以下の6つの研究課題を企画しました。

### （研究課題）

くすりの濃度を測定しよう

開発中のくすりの作用はどのようにして評価されるのか

患者一人ひとりにあった薬物療法を行うために錠剤作りを体験して、薬について考えてみよう  
細胞の生死を見る

遺伝子診断で自分の体質を知ろう

今年も6月に県内高校宛に当初35名の参加希望者を募ったところ、98名もの応募者があり、学年や志望理由書などをもとに選考し、40名の高校生に参加してもらいました。今年は米国に居住している県内出身高校生が応募するなど薬学部のこの企画が定着してきたことを示唆しております。第1日目午前中に廣部学長、辻学部長の挨拶につづいて注意事項の説明、記念写真を撮影後、6グループに別れ研究課題の説明がされ、担当教員の研究室で大学院生と一緒に研究課題に取り組みました。

2日目は朝から前日の実験を継続し、午後には



2日間の実験結果の整理を行い、各グループの研究結果の発表、討論を行いました。また、発表会終了後にはカレッジホールで参加高校生、指導大学院生、教員が普段できない話題で盛り上がり交流を深めました。

出身高校が異なる高校生が、高等学校とは全く雰囲気が異なった研究室で、当初は緊張した雰囲気が漂っていましたが、その内に高校生同士打ち溶け合って、真剣に実験に取り組んでいました。

参加高校生から寄せられたアンケートの感想文には、大学の研究室の実験器具、設備を初めて見たり使い、高校では体験出来ない経験であった、また大学受験のための化学の勉強が大学進学後の勉強、実験・研究にも必要であることが理解でき、勉強そのものに興味を持てるようになったなどの文章が数多く見受けられ、本企画の当初の目的を充分果たすことができたものと喜んでおります。



## 国際関係学部・研究科同窓会発足！



今年に入り、私ども国際関係学部卒業生・在校生・教員有志一同は、静岡県立大学国際関係学部及び研究科同窓会を設立致しました。

国際関係学部は平成3年3月、同研究科は平成5年3月に第一期卒業生を送り出して以来、合わせて2千名の大台を超える卒業生を社会に送り出してきましたが、現在に至るまで同窓会組織がなく、卒業生・在学生・教員も含めた結束を強めようという同窓会設立を唱える声が高まり、今回の実現に至りました。

今年の2月、同窓会設立の発起人である有志の卒業生によって役員を選任し、本会会長に、本学部第一期生の吉添克宏さんに就任して頂きました。

本同窓会では、会員相互の連絡を援助するための名簿の作成や、会報の発行、会員の親睦を促進し、母校の発展を図るための講演会、懇談会の開催等の企画を行っていきたく考えております。

現在、6月に発行された会報の配布と、卒業生・在学生への入会案内を行っております。今後は、さらに多くの方に入会して頂き、活発な活動をしていきたく考えております。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。



第一回県立大学国際関係学部同窓会総会

日時：11月2日(日)14時より

場所：薬学部棟3階6329教室 同日、シンポジウム・懇親会も開催予定

ホームページ：<http://fuji.u-shizuoka-ken.ac.jp/dosokai/home.htm>

↑ 出席申し込みもこちらから！



お問合せ先：静岡県立大学国際関係学部・研究科同窓会事務局  
〒424-8526 静岡市谷田52-1 静岡県立大学内  
TEL：054-264-5268（津富研究室）/ 054-264-5361（島田研究室）  
Mail：iralumni@u-shizuoka-ken.ac.jp



## 教員の人事

採用

(7月1日付け)

寺崎 正紀 環境科学研究所助手



## 「薬学部・薬学研究科の動き」

薬学部長 辻 邦郎

今春、我が国における48の職業に対する信頼度調査が行われましたが、トップは前回の調査と同様、消防士、2位は看護師、3位エンジニア、4位裁判官で薬剤師は前回同様の5位という結果で、薬剤師は社会から高く信頼されていることが伺えます。以下は弁護士、医師、保育士、介護福祉士、歯科医師と続いています。尚、米国でも同様の調査が行われています。1位は看護師、2位薬剤師、3位陸軍将校、4位教師、5位医師、6位牧師、7位警察官の順であり、薬剤師は日本より高い信頼度を得ています。薬の専門家としての薬剤師に対する高い評価に応えるためにも、信頼される薬学研究者の育成は薬学部に課せられた使命です。以下、最近の薬学部・薬学研究科の動向について紹介します。

### ・薬学教育年限6年間

平成4年(1992)医療法が改定され、薬剤師は医療の担い手として重要な役割が明確に規定されました。それに伴い薬学教育のあり方の議論がされ、薬学教育を現在の4年間から6年間に延長することがほぼ確実な状況になってきました。近年の医療技術、医薬品の創製・適応における科学技術の発展はすさまじく、4年間の教育では対応できなくなってきたわけです。

### ・医療薬学教育の充実とその問題点

薬剤師の業務を早期に体験し、基本的知識、技能、態度を修得することを目的に、昨年度より1ヶ月の病院実習(3週間)・薬局実習(1週間)を必修としました。この実習を行うにあたっては県内の多くの病院・薬局にお世話になりますが、いろいろな問題を抱えています。現在、2度に分け実習をお願いしていますが、それでも大学から

近い距離(静岡市内)に全学生の実習を引き受けて頂ける病院・薬局はありません。そのため、学生は西は浜松、東は三島まで出かけて行きます。薬学教育が6年間となった場合、病院・薬局実習を6ヶ月程度行うことが話題になっていますが、そうなりますと、大学から遠い病院に行く場合、宿舍等を検討しなくてはと考えています。また、昨年、県立総合病院にサテライト研究室を整備し大学院生が半年、研究を行っていますが、今後遠方の病院で研究を行う必要性が考えられ、その宿舍、経費等についても考慮が必要になってきます。

### ・平成15年度入学者の男子学生数急伸

薬剤師は女子高生にとって人気が高く、全国の薬科大学、薬学部の新生は女性優位です。しかし、本学薬学部の今年の新生は男子97名、女子56名でした。この原因として本学が21世紀COEプログラムに採択され研究主体の大学として認められたこと、日本の景気が悪く薬剤師の資格が注目されたこと、また、化学と物理を必須としたことが影響したのではと考えています。

### ・第88回薬剤師国家試験合格率92.80%

第88回薬剤師国家試験が3月29日、30日の両日に実施され、4月23日に合格者が発表されました。本学の新卒者の合格率は92.80%で国公立大学では2位、私立を含めた順位では10位という立派な成績でした。教員の全力の指導と学生の努力の賜と思いますが、100%の合格を目指し今後も一層の精進が望まれるところです。

### ・「薬学教育者ワークショップ東海」の開催

今回、東海地区の4薬系大学(本学、名市・薬、名城・薬、岐薬)が中心となり「第6回全国薬学教育者ワークショップ東海」を7月19日、20

日、東海地区では初めて、名城大学で開催しました。東海地区の各大学から6名、金沢大・薬1名、北陸大・薬2名、計27名の教員が3つのグループに分かれ教育者としての自覚、教育の実を上げるための方略等について2日間真剣に講習をうけました。大学の教官は教育については無免許といわれます。確かに、教育理論等を特別履修したわけではありませんが、これまで各自であれこれ工夫し教育効果を上げてきたと思います。しかし、今回、ワークショップに参加することにより得ることも多かった事と思います。これからの教育に反映されることと思います。

### ・日中健康科学シンポジウムSARSのため延期

本年秋、中国・杭州で日中健康科学シンポジウムを開催の予定でしたが、SARSのため延期することとしました。今年はSARSのため多くの学会、催しが中止の憂き目にあいましたが、暫く様子を見ることになりました。

### ・アリゾナ大学との連携強化

本年、薬剤学教室・山田静雄助教授の多大な努力により、アリゾナ大学と大学間交流協定を締結することとなりました。今後は教員、大学院生との活発な交流に発展するものと思われませんが、当面は薬学部の教員交流を中心に進めることになるでしょう。

### ・コンケン大学(タイ)薬学部・医学部と学部間協定締結

本年、コンケン大学より2名の研究性を薬学部を受け入れますが、これを契機にコンケン大学薬学部・医学部と学部間協定を締結し研究教育活動の一層の充実を図りたいと考えています。

### ・1年生学外研修、今年も雨

7月10日、ヤクルト富士裾野工場にバス4台に分乗し見学に出かけました。乳製品の培養タンクが整然と並び、厳しい管理のもとに製品が自動充填される様子に皆感動した様子でした。今年も



昨年同様、生憎の雨と霧のため富士山新五合目には行けませんでした。白糸の滝は見学できました。バスの中ではアドバイザーの先生との親密な交流が行われ大変、有意義であったと思います。

### ・高校生を対象とした「夏休みファーマカレッジ2003」を開催

今年も7月31日、8月1日の2日間、高校生を対象とした体験入学を実施しました。募集人員30名のところ98名の申し込みがありましたが、40名を選び実施しました。高校生たちは本学で行われている研究の一端をからだで感じる事ができたはずで、貴重な体験をし、将来この分野で活躍するヒトがでてくれることを切に期待します。

### ・創立88周年・静岡薬科大学開学50周年事業に向けて

本年(平成15年)は本学薬学部の前身である静岡薬女子学校が大正5年(1916年)に静岡市鷹匠町の地に創立されて以来88年、また昭和28年(1953年)静岡県立静岡薬科大学の開学からは50周年の節目の年を迎えました。その間、着実な発展と充実を重ね、教育・学術研究の拠点として高い評価を受け、卒業生は各界・各方面において大いに活躍しています。

これを記念し、平成16年5月8日(土)に「記念式典・記念講演」および「記念祝賀会」を開催します。また、薬学部の沿革を記した銘版の作製、記念誌の発行、国際交流基金の設立を計画しています。



## 「食品栄養科学部の動き」

食品栄養科学部長 木苗 直秀

県立大学の創立と同時に誕生した食品栄養科学部は、既に17年目を迎えている。食品学科と栄養学科が連携して「21世紀の食と健康を科学する」こと、それらの「新知見を世界に発信すること、併せて「優秀な人材を世の中に送り出す」ことなどを目標にして日夜研究・教育に励んでいる。両学科とも1学年の定員が25名と少ないので、チューター制度を通して教員と学生とのコミュニケーションが取りやすい利点をもっている。しかし、最近の学生の気質の変化や、教員が多忙であることなどから、必ずしもこの制度が十分に活用されていない。そこで、本年度より後援会からの援助を受けて、両者がより接しやすい環境作りを試行している。

本年7月1日現在、食品栄養科学部1～4年生は233名（男子40名を含む）、食品栄養専攻の大学院生は博士前期課程65名（女子29名を含む）、博士後期課程22名（女子5名を含む）で、計320名が在学している。本年3月末日で三好泰博先生と小國伊太郎先生が定年退官され、名誉教授になられた。4月には、新たに小林公子先生が細胞生理学研究室助教として着任された。また、澤田夏美先生が代謝調節学研究室の助手として採用され、井深章子助手は家庭の事情により退職された。

食品学科は、平成14年度より学外から3年生への編入学試験を実施している。定員は若干名とし、高専や短大から新風を吹き込み、常に活性化された環境作りを目指している。最近、専門基礎科目や実習等のカリキュラムの見直しにも着手しており、より良い人材の育成に努めている。

栄養学科では、平成13年度に管理栄養士養成

施設となったことに伴い、講義とともに実習内容のさらなる充実が求められている。3年生は臨地実習と称して、学校、病院、保健所で本年度は3週間、平成16年度からは4週間の研修が義務づけられており、その対応を急いでいる。また、給食経営管理実習室のHACCP（危害分析重要管理点方式）に適應した施設設備への改善を急がなければならない。これらはいずれも食を通してヒトの健康・長寿を保持するため、また食の安全・安心を確保するために本学部として整備すべき重要な課題となっている。なお、教育面をさらに充実させるため、学生による授業評価の実施を検討している。

研究面では教員間の共同研究を推進しており、学長特別研究費、後藤研究費のほか、文部科学省より採択された21世紀COEプログラム、都市エリア産学官連携促進事業を通して大学院生やポストドクを含めた研究体制が構築されてきている。その成果は国内外で開催される学会やシンポジウムで積極的に発表されており、専門誌への掲載も盛んである。また、静岡健康長寿学術フォーラム、USフォーラム、茶学術研究会など地元で開催される学会への積極的な参加を促している。平成14年度の就職内定率は98%と数字的には問題ないが、希望する職種に就くことができたか気になっている。昨年度より3年生を対象にインターンシップ制度を実施している。本年度は16企業、5県試験研究機関で3年生20名、専攻院生 名が研修を受ける予定であり、実社会を知り、さらに自分の将来の方向づけに役立つようにしている。当学部では、全教員がお互いを理解し、協力し合うことを目標として、本年度より教員会議を開催

している。法人化問題や教員のあるべき姿、教育・研究に対する姿勢などに関して意見交換し、共通の認識をもつことを目指している。最近、高校側から出前講義の依頼があり、本年度は12名の教員が参加する予定である。総合大学の利点を生かしつつ、個性豊かな学生が集う学舎として、当学部が研究面でさらに発展することを目指している。学部卒業生は既に740名に達しており、同窓生の集まりである創星会も活発に活動してい

る。卒業生が、国内外で大きくはばたいている姿をみることはとても嬉しいものであり、そのような人材の育成にさらに力を注いでいきたいと考えている。



## 小学校教諭の環境体験実習を支援

環境科学研究所では、2001年から始まった小学校での環境学習を支援するための「環境体験実習」を、本年も小学校の教諭を対象に「大気汚染について学ぶ」、「ごみの話」及び「水の汚染と浄化を学ぶ」の3つのテーマについて、上記実施担当の先生方により3日間にわたり行った。

8月6日（水）は、環境工学研究室の担当で「水の汚染と浄化を学ぶ」をテーマに、小学校の教諭6名が参加した。講義では、岩堀恵祐教授が、環境浄化の難しさを具体的に説明したほか、県内の沿岸域や湖沼、地下水の水質汚濁の現状などについても紹介した。また、下水処理場で行われている水の浄化を再現した実習では、微生物を使って下水を浄化した後、どのくらいきれいになって

いるかを測定した。

実施担当者：大気環境研究室（雨谷敬史、大浦健）  
環境政策研究室（横田 勇、仁多義孝）、環境工学研究室（岩堀恵祐、宮田直幸）



## 県大で国民年金学生納付特例申請の手続きができます！

学生納付特例申請は、普通、住所地の市町村役場で行いますが、今回、特別に静岡県立大学において、『学生納付特例申請書』の臨時受付コーナーが開設されますので、是非、御利用ください。

特に、今年、20歳の誕生日を迎えた昭和58年生まれの学生の皆さんは、この機会に手続きをしてください。

日 時 平成15年10月23日（木）午前10時から午後2時30分

場 所 静岡県立大学 学生ホール

持ち物 年金手帳又は納付書・学生証・印鑑

その他 大学生で国民年金の加入期間に未納期間があると、事故や病気で障害が残ったときや、不幸にして亡くなったとき、障害基礎年金や遺族基礎年金が支給されない場合があります。

<問い合わせ先>

静岡社会保険事務所（TEL：054-284-4313）清水社会保険事務所（TEL：0543-53-2235）



# 強い骨を作ろう！

## 骨密度測定イベントのご案内と昨年の結果報告

### 骨密度測定イベント「強い骨を作ろう！」とは

私たち健康増進研究会-FitNurse-は、看護師・保健師・管理栄養士といった資格を持つ看護学部助手有志（現メンバー：白石、揚張、佐藤、竹村、永田）の団体です。2001年から活動を始め、毎年、剣祭で骨密度測定イベントを実施しています（大学案内2002、2003にて紹介されています。また2001年の剣祭でのイベントについては学内ニュースはばたき81～83号で報告しました）。今年も11月1日（土）に、学生ボランティア（FitNurse Jr.）の協力を得て、「強い骨を作ろう！」として骨密度測定およびアンケート、食事・運動相談を行う予定です。これまでの実績をもとにアンケートをスリム化し、測定や指導内容を充実させて、より多くの参加者が集まれるようにしたいと思っています。

ここでは、骨密度測定がどのようなものか、またどのような意味を持つものなのかについて、昨年の結果を示しながらご紹介します。

### 骨密度の測定とは

骨密度測定では、超音波法の機器を用いて踵骨の骨密度を測っています。測定は1分程度で簡便にできます。骨密度は「音響的骨評価値（OSI）」という指標で表され、男女別・年齢別に標準値との比較を行うこともできます。健常成人・老人のOSI平均値は男性でおおよそ2.92～3.26、女性でおおよそ2.09～3.23です。踵骨は、病的な骨量変化などよりも重力の影響（つまり生活における運動の影響）による骨量変化を反映しやすい部位とされています。

また骨密度と生活習慣・健康習慣との関連については、これまでの研究から、中高年齢者では若

### 健康増進研究会（看護学部助手有志）

年時の運動習慣や牛乳飲用が骨密度の高さにつながっているという結果が示されています。若い世代についての研究も行われていますが、女子中高生以外では明らかな関連を示すデータは十分に得られていません。

### 昨年の結果から（1）参加者の概要

昨年は、剣祭初日である2002年11月2日（土）の9時から16時に測定を実施しました。事前に学内や大学周辺の自治会へのチラシ掲示・配布をしていたこともあり、1日のみという限られた時間にもかかわらず前回の約200名を上回る約350名の参加者がありました。

参加者の内訳は、男性114名（学生47名＋一般67名）、女性233名（学生96名＋一般137名）で、平均年齢は男性33.4±18.0歳（17歳から82歳まで）、女性33.3±18.1歳（15歳から87歳まで）でした。男女ともに18～22歳の学部生が多かったです。

食事相談を受けた参加者は34名で、男性では1人暮らしの学生が、女性では高齢者が目立ちました。



### 昨年の結果から（2）骨密度と「健康生活」状況

骨密度測定の結果では、OSI平均値は男性3.019±0.433、女性2.576±0.337であり、ほぼ標準値と同様でした。男女ともに体格の指標であるBMIとの相関は見られませんでした。

イベントでは、測定の前に健康状態や生活状況に関する自記式アンケートを記入してもらいました。主な質問内容は、骨密度に関係が深いとされている生活要因：「食事」「運動」などの生活習慣と女性の月経についての項目です。その他に骨折経験や世帯構成などの項目も含まれています。OSIとこれらの項目に相関関係があるかどうか統計分析してみましたが、今回の結果からは、有意な相関が見られた項目はありませんでした。ただし、気になる部分はいくつかありましたので、ご報告します。

普段の生活やこれまでの健康状態に関しては、10～20歳代で「骨折経験者が多い（特に男性）」、「腰痛が多い（特に女性）」、「半数以上が1人暮らし」、「睡眠習慣が不規則」ということがありました。

食事習慣に関しては、10～20歳代の男性の34%、女性の15%が日常的に朝食を摂らない生活をしていることが分かりました。

骨量の増加に深く関わるカルシウムを多く含む食材である牛乳・乳製品、大豆および小魚の摂取頻度は、骨量が最大になる10歳代後半から20歳代までの参加者では低く、また各食品群が充足しているかの問いに対して、不足しているという回答が多くみられました。小中学生時代の牛乳摂取頻度を年代別にみると、週3回以上摂取していた人の割合は、10～20歳代で42%、30～50歳代で49%、60歳以上の63%で、若い世代ほど学童期の牛乳摂取頻度が低い傾向がみられました。一方で、カルシウム剤は、性別・世代に関係なく約15%の人が日常的に摂取していました。



また、最近1ヶ月の運動習慣を男女別に見てみると、男性は63%が何らかの運動をしているのに対して、女性は43%と少ない結果でした。運動していても「不足している」と感じている人が男女いずれも多くいました。

本学学生が多く含まれる10～20歳代に限ってみても、男性は62%が運動していましたが、女性は36%しか運動しておらず、男女差がみられました。10～20歳代が行っている運動の種類をみると、男性は上位3位が、ソフトボール（26%）、サッカー（19%）、水泳（9%）であり、女性は、テニス（15%）、サッカー・体育（各9%）で、男女共に部活動や体育施設での運動が多いことが考えられます。また、「体育」は男性においても第4位であり、学生の場合、自らが健康運動を実践するというよりは、学校側が提供する運動の機会に参加していると言えるのかもかもしれません。





参加者の多くは骨密度測定に対して積極的なコメントを寄せてくれました。「女性は骨粗鬆症になる確立が高いから定期的な測定は必要だと思う」など、現在の骨の健康のみならず予防までも意識している人や、「骨密度は生活習慣によって変化するため定期的に観察する必要があると思う」といった生活改善への動機付けにしている人もいました。

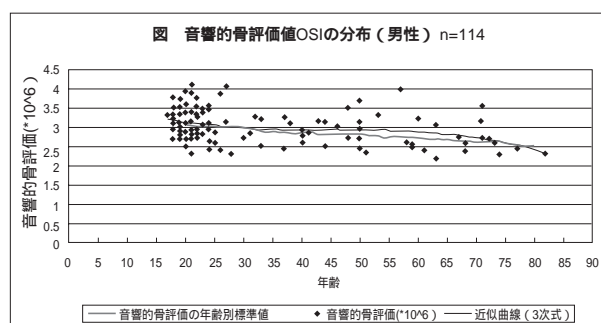
**測定へのお誘い**

今年も剣祭初日（11月1日土曜日）にイベントを実施します。朝9時から15時まで受け付け

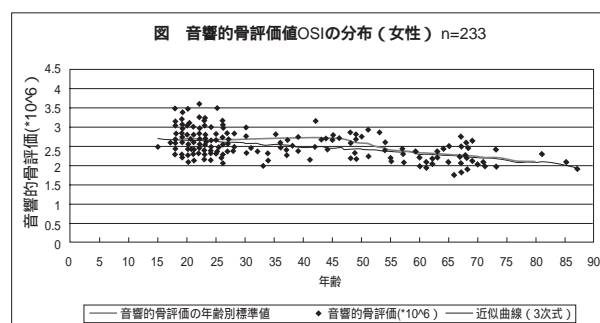


ております。ぜひ、ご自分の骨密度や「健康生活」状況を確認めにいらして下さい。

参加者の骨密度散布図（男性）



参加者の骨密度散布図（女性）



**関西薬学生連盟バレー大会に女子バレーボール部チーム連続全勝優勝、男子チーム準優勝！**

第57回関西薬学生連盟バレーボール大会（兵庫県明石中央体育館にて、平成15年8月12日～15日）において、昨年度に続き、本学女子バレーボールチームは全勝優勝しました。

さらに、今大会で、男子チームも7勝1敗で準優勝になりました。本学開学以来の快挙です。みんなでお祝いするとともに、日頃の練習、チームのまとまりなどの努力を讃え、益々の活躍を期待したいと思います。薬学部黒羽孝太先生が監督、大石哲夫先生がご指導にあたってくれました。ご苦労様でした。

（薬学部・鈴木康夫）



**名誉教授の称号授与**



小國 伊太郎先生  
（前食品栄養科学部教授）

小國伊太郎前教授は、昭和50年4月に静岡女子短期大学食物栄養学科助教授に採用され、昭和57年に同教授に昇格、昭和62年4月には短期大学部食物栄養学科教授、平成13年4月から食品栄養科学部教授として食品学研究室を主宰し、学部生の教育・研究に貢献された。

小國氏は20年余りに、静岡県下の各市町村のがん死亡比を算出して検討し、緑茶生産地でがん死亡比が著しく低いことを明らかにされた。また、緑茶生産地の住民が非生産地と比較して、やや濃い目の緑茶を高頻度に摂取している傾向を明らかにし、疫学ならびに統計学的手法を用いて、緑茶飲料のがん予防の可能性を検討し、発表された。この報告書は、緑茶の機能に関する研究の先駆的なものとなり、その後、緑茶の研究は目覚ましい発展をとげ、多くの知見が集積されることとなった。また、小國氏は、動物実験で緑茶の抗腫瘍作用を明らかにするとともに、中国癌研究所との共同研究でマウスを用いて緑茶の発がん抑制作用を明らかにされた。

さらに最近、消化性潰瘍を経て、胃がんを引き起こすと考えられているヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）に対するカテキンの除菌効果について、疫学的、実験室的、臨床的検討を加え、カテキンの抗ピロリ菌作用の可能性を報告しておられる。

小國氏はこれら一連の研究を通して、知恩会斎藤奨励賞（昭和51年）、産業功労賞（平成10年）、第1回茶学術研究顕彰（平成12年）を授与された。また、茶学術研究会および、お茶料理研究会の評議員のほか、世界O'CHA学術会議、フードファクター国際会議等の組織委員会委員としても活躍された。



三好 泰博先生  
（前食品栄養科学部教授）

三好泰博前教授は、昭和62年4月、静岡県立大学の開学と同時に国際関係学部の教授に採用され、平成8年4月からは食品栄養科学部に移られ、細胞生理学研究室を主宰された。平成10年4月からは大学院生活健康科学研究科学生の教育・研究指導に積極的にあたられるなど、本学において16年間の長きにわたり教育研究に尽くされた。

昭和62年には、日本宇宙生物科学会の設立発起人の1人として貢献された。平成4年9月には、我が国初のスペースシャトルを利用した宇宙実験が行われ、三好氏の研究テーマ「アカパンカビを用いた概日リズム」が生命科学分野の12テーマの一つに選ばれた。翌年3月には、他大学に先がけてスペースシャトル内での実験を担当された毛利衛宇宙飛行士を招いて講演会を開き、県民に宇宙実験について知っていただく機会を持たれた。また三好氏のもう一つの大型プロジェクトは、基礎生物学研究所（愛知県岡崎市）内に建設された大型スペクトログラフです。この施設は、世界最大の出力と最高性能を有しており、欧米の研究者の間でも「スペクトログラフが必要ならば岡崎に行こう」が合い言葉になっている。

学会活動としては、日本植物生理学会など7つの学会に所属し、毎年ユニークな研究発表を続けてこられた。昭和63年度、平成元年度には日本植物生理学会評議員を、平成元年度と平成10年度には日本植物学会年会の実行委員長を務められた。現在は宇宙基地利用委員会委員をしておられる。

社会活動としては静岡県環境保全審議会委員、静岡県立大学公開講座講師、掛川市とはなにか学舎講師等を努めるとともに、現在、社会福祉法人静清会（清水折戸）の理事、評議員として職員の教育にも携わっておられる。





関森 勝夫先生  
(前国際関係学部教授)

関森勝夫前教授は、昭和54年4月に静岡女子大学文学部に着任された。以来本年3月まで、静岡県立大学をあわせて通算24年にわたり文学の教育と研究に従事された。

静岡県立大学発足後は、学部評議員、学生部長、国際関係学部長の要職に就かれ、大学ならびに学部の運営に多大の貢献をされた。

学会等の活動では、俳文学会、日本近世文学会所属。社団法人俳人協会では幹事・評論賞選考委員・紀要委員として活動され、また、静岡俳文学研究会会長、藤枝市民文化祭審査員、俳誌『蜻蛉』主宰など。国際的な活動として、中国・杭州大学、ドイツ・ケルンにおける『日独俳句シンポジウム』、ベトナム・ホーチミン市外国語・情報技術大学などで講演されている。

関森氏は、自ら俳句を実作して『鷹の目』、『親近』、『鳳舞集』、『羽衣』などの句集を編まれるとともに、芭蕉ならびに蕉門十哲の一人である内藤丈草の研究から、水原秋桜子や自らの師である大野林火など近・現代俳人の研究にいたるまで幅広く行われた。実作を通して伝統的な詩形に新たな息吹をもたらし、表現の幅を広げようとしたこと、埋もれた俳人の発掘を通して作品受容の可能性を開いたこと、俳句という日本の伝統的言語芸術を中国の漢詩をはじめ、広く世界の言語芸術と交流させることで、俳句の国際社会への普及ならびに異言語、異文化の交流に貢献したことなど、多年にわたる活動と業績に対して、第4回静岡市学術芸術奨励賞が贈られている。



矢野 正子先生  
(前大学院看護学研究科長)

矢野正子前教授は、昭和36年東京大学医学部衛生看護学科を卒業後、東京大学医学部付属病院分院外科病棟に看護師として勤務、以後数々の要職を歴任され、昭和60年には厚生省健康政策局看護課長に就任、看護職員需給見直しをはじめ、数多くの政策策定に参画された。また、開発途上国の看護に対する国際協力にも精力的に取り組み、厚生行政の推進に手腕を発揮された。その後平成5年には東京大学医学部基礎看護学講座主任教授に就任され、学生の教育・研究の指導に当たられた。

臨床、行政、教育のいずれの職場においても要職を務められ、平成9年に本学看護学部が開設されると同時に看護学部長として就任された。就任後は看護学部の教育、研究および運営の基礎を固めるのに尽力されるとともに、研究科修士課程の設立のために粉骨砕身され、平成13年には、大学院看護学研究科長に就任され、2年間研究科の発展に尽くされた。

看護学部長就任以来本年3月に退職されるまで、本学部・本研究科の理念の達成のために、学部学生・大学院生の教育・研究の指導はもとより、臨床との連携・調整、国際看護交流協会・国際協力事業団からの海外研修生の受け入れ等々、多面的に学部の基礎づくりに奔走された。学内においては、評議会、大学経営会議、倫理委員会、国際交流委員会等で重責を果たされ、学外においては、静岡県長寿フォーラム、第19回日本看護科学学会学術集会、静岡アジアがん会議1999などの企画・運営を担当され、また、静岡県の審議会等の委員として、社会的にも多大な貢献をされた。



神谷 護先生  
(前環境科学研究所教授)

神谷護前教授は、昭和42年3月、東京大学大学院薬学研究科博士課程で薬学博士の学位を取得後、同年4月に静岡薬科大学薬品物理化学教室の助教授に採用され、物理化学、量子化学、薬品物理化学特論等の講義を担当し、磁気共鳴スペクトル、生体関連分子の電子状態、発色団会合系の旋光性波型解析等に関する物理化学的な研究を行うとともに、多数の大学院学生の研究を指導された。平成3年4月には大学院生活健康科学研究科環境物質科学専攻の機器分析研究室主任教授に任用され、機器分析特論の講義を担当された。平成9年4月には環境科学研究所開設にともない、農薬及

び関連化合物の分解性・性状評価、包接機能性物質の特性解析と環境化学的な有効利用、環境有害物質の物性・分離指標の解析、河川富栄養化の水質調査等に関する研究を行うとともに、大学院学生の研究を指導された。

大学における役職としては、評議員を2年間、専攻長を2年間務められた他、特に環境物質科学専攻の修士課程の開設や博士後期課程の設置に際しては、専攻長として、それらの事業に付随する懸案事項の解決や事務処理にご尽力された。

学会活動では、環境科学会、日本薬学会、日本化学会、生物物理学会、エコケミストリ-研究会、バイオアッセイ研究会等の会員として幅広く活躍された。

社会活動としては、環境庁委託調査研究班の班員、しずおか県民カレッジ・環境学習サポ-タ-養成講座の講師、第3地区ス-パ-コンピュータ利用協議会の連絡所責任者、環境科学研究所一般公開のワ-キンググル-プ委員等を務められた。

## 平成15年度静岡県立大学看護学部海外講師による特別講義 第2回公開セミナーを開催

日 時：11月18日(火) 18:00~20:30

場 所：静岡県立大学 大講堂

テーマ：10代の子どもたちに伝えよう アサーティブネスなコミュニケーションスキル

暴力なんてふるわない! 暴力なんてふるわれない!

参加費：無料

言 語：英語(逐次通訳があります)

対 象：学生、将来教員やカウンセラーになるべく勉強中の方、カウンセラーや心理判定士など、心理職に携わる方、一般の方

参加申し込み：申し込み不要(直接会場へお越しください)

講 師：アニタ・ロバーツさん

アニタ・ロバーツさんは、SafeTeenという国際的に認知された若者のための暴力防止プログラムを開発し、暴力防止の分野で1976年から活動しています。1985年に「国際女性の10年」ナイロビ会議(第3回世界女性会議)のカナダ代表に選ばれており、1997年にはYMCAの「傑出した女性」賞を教育、訓練、開発の分野で受賞しています。

問い合わせ先：看護学部教授 中島登美子 Tre & Fax 054-264-5485



# 奨学金をありがとうございます

## 「日本平留学生基金」入学祝金贈呈式

日本平留学生基金（代表イトウ秀雄氏）は5月21日、本学へ今年入学した留学生10名（国際関係学部9名、経営情報学部1名）に入学祝金1万円を贈呈した。

日本平留学生基金は、県立大学に在学している主として東南アジアからの留学生に金銭的援助を行うことを目的として、平成8年にイトウ秀雄氏の遺暦記念に設立された基金で、今年で8年目を迎える。イトウ氏の基金募集の趣旨に賛同した協力者は400を超える個人・団体にのぼる。

贈呈式でイトウ代表は「初心を忘れず、学生の

あるべき姿を求め、未来に向け頑張る欲しい。」と挨拶し、留学生を代表して国際関係学部1年高鵬さんが「温かいご支援に心から感謝します。教科書購入等有効に使わせていただきます。」と感謝の言葉を述べた。



## 「富士川町静岡県立大学留学生就学奨励金」交付式

富士川町文化事業振興会が支給する就学奨励金の交付式が5月31日、富士川町中央公民館で行われ、学部1年の留学生10名全員に1人あたり10万円が支給された。

この就学奨励金は、本学に在学する優秀な留学生に総額100万円を交付し、留学生の教育・研究活動を支援するとともに、富士川町が主催する事業を通じて、留学生と富士川町民との相互の心の触れ合いを深め国際交流を図ることを目的としている。

交付式では坪内伸浩富士川町長が挨拶し、留学

生を代表して国際関係学部1年李柔美さんが「専門的な勉強はもちろんのこと、日本文化も積極的に学びたいと思っています。ご厚意に感謝します。」とお礼を述べた。



## 「万城食品奨学金」授与式

（株）万城食品奨学金授与式が5月20日に三島市の万城食品本社にて行われた。

本奨学金は、万城食品により中国出身の留学生への奨学金支給を目的として設立され、今年度で7回目を迎えた。万城食品の意向により、薬学部4年劉凱さんが、4、5、6回目に引き続き今年度も採用された。

授与式では、（株）万城食品の米山寛代表取締役から目録を贈られ、劉さんが「この奨学金のおかげで勉強に集中できます。貴社の御恩を忘れず今後も精一杯努力していきます。」とお礼の言葉を述べた。



## 「TOKAI奨学金」目録授与式

（株）TOKAI奨学金目録授与式が6月20日に本学で行われた。

本奨学金は、TOKAIにより地域に密着した企業の事業の一環として設立され、今年度で12回目を迎えた。

「地方自治体の合併問題について」を論文テーマに募集し、生活健康科学研究科博士後期課程3年加治屋勝子さん、国際関係学部3年野中絢子さん、同学部2年王驪さんが採用された。

授与式では、（株）TOKAIの岡野憲正常務取締役から目録を贈られ、奨学金が「国際学会の渡航費用などにあて、より一層研究に励んでいきたい。」（加治屋さん）など、それぞれお礼の言葉を述べた。



## 「静岡ガス奨学生」認定証授与式

静岡ガス（株）奨学生認定証授与式が6月24日に静岡市の静岡ガス本社で行われた。

本奨学金は、静岡ガスにより、社会有用の人材育成に寄与することにより地域社会への貢献を図ることを目的に設立され、今年度で4回目を迎えた。

「自分自身の将来像について」または「環境問題について」を論文テーマに募集し、国際関係学部3年陶靖さん、同学部2年ダウド・スサントさんが採用された。

授与式では、静岡ガス（株）大石司朗取締役社長から認定証を贈られ、奨学金が「将来は政治の場で働きたい」（陶靖さん）「外交官を目指します。」（ダウド・スサントさん）と抱負とともにお礼の言葉を述べた。



## 「静岡信用金庫奨学生」認定書授与式

静岡信用金庫奨学生認定書授与式が6月30日に静岡市の静岡信用金庫本部で行われた。

本奨学金は、地域に生きる静岡信用金庫の基本方針に従い、次代を担う人材育成に寄与することを目的に設立され、今年度で7回目を迎えた。

「自分の可能性について」または「失業問題による社会の影響について」を論文テーマに募集し、国際関係学部2年長谷川貴代さん、看護学部1年長谷川恵子さんが採用された。

授与式では、静岡信用金庫の高橋晋理事長から認定書を贈られ、奨学金が「留学を希望しており、この奨学金を役立てたい。」（長谷川貴代さん）など、お礼の言葉を述べた。



## 「清和海運奨学金」授与式

清和海運（株）奨学金授与式が7月7日に本学で行われた。

本奨学金は、清和海運により、地域に密着した企業として経済的に就学困難な学生の援助をすることを目的に今年度設立された。

「将来の物流業について」を論文テーマに募集し、薬学部3年福留大輔さん、食品栄養科学部4年坂田とも子さん、薬学研究科博士前期課程1年行天由香里さんが採用された。

授与式では、清和海運（株）の宮崎總一郎代表

取締役社長から認定書を贈られ、奨学金が「学業のために必要な辞書や参考書の購入をし、御期待に沿うよう一生懸命努力します。」（行天さん）など、それぞれお礼の言葉を述べた。





### 「駿河精機奨学金」授与式

駿河精機（株）奨学金授与式が7月10日に本学で行われた。

本奨学金は、駿河精機により、経営理念の《天意創造》のもとに地域に密着した企業を目指し人材開発の一環として設立され、今年度で8回目を迎えた。

「人生で感動したこと」を論文テーマに募集し、生活健康科学研究科博士前期課程1年西村祐子さん、経営情報学研究科修士1年ゴーヴァンハウさんが採用された。

授与式では、駿河精機（株）の望月信行取締役

管理部長から奨学金を贈られ、奨学生が「アルバイトと勉強の両立が難しかったが、これからは研究を順調に進めることができます。」（ゴーさん）など、それぞれお礼の言葉を述べた。



### 「東海澱粉国際交流奨学基金」目録授与式

公益信託東海澱粉国際交流奨学基金目録授与式が7月25日に東海澱粉本社で行われた。

本基金は東海澱粉により静岡県内の大学院に在学しているアジア諸国からの留学生への奨学金支給を目的として平成10年4月に設立された。

同基金の運営委員会の審議を経て、本学からは

薬学研究科博士前期課程1年 姜瑋瑋さん、同研究科博士前期課程2年 関俊哲さん、国際関係学研究科修士2年 王戈さん、経営情報学研究科修士1年 庄毅さんの4名が採用された。

授与式では目録が贈られ、奨学生がお礼の言葉を述べた。

### 「天野回漕店奨学生」認定書授与式

（株）天野回漕店奨学生認定書授与式が7月31日に本学で行われた。

本奨学金は、天野回漕店により「共存共栄」の経営理念に沿って地域社会の発展に努め、地元静岡県の学生の奨学奨励に寄与することを目的に設立され、今年度で9回目を迎えた。

「私と港との関わりについて」または「自身の『原動力』となるもの」を論文テーマに募集し、国際関係学部2年 鄭宏盛さん、同2年 施曉琳さん、同3年 濤利さん、同2年 張運さんが採用された。

授与式では、（株）天野回漕店の小松信介取締役

社長から認定書を贈られ、奨学生が「皆さんの期待を改めて認識しました。一生懸命勉強するとともに、社会貢献していきたい。」（鄭さん）など、それぞれお礼の言葉を述べた。



### 「南富士産業奨学金」授与式

南富士産業（株）奨学金授与式が8月21日に本学で行われた。

本奨学金は、南富士産業により、向学心に燃える優秀な学生を援助し、国際社会、文化に貢献する人材育成の一助とすることを目的に設立され、今年度で7回目を迎えた。

「実践！お茶養生」を論文テーマに募集し、国際関係学研究科修士1年 竹本彩香さんが採用された。

授与式では、南富士産業（株）杉山定久代表取締役社長から奨学金が贈られ、竹本さんが「頂い

たチャンスを無駄にせず、一生懸命研究に励みます。」とお礼の言葉を述べた。



### 日本農芸化学会大会で論文賞を受賞

食品栄養科学部の2つの研究室、食品化学研究室、微生物生産学研究室からの論文が、それぞれ2002年度BBB論文賞を受賞した。3月31日（月）パシフィコ横浜国際会議場で行われた日本農芸化学会大会総会で表彰された。

対象となった食品化学研究室からの論文は、K. Kobata, M. Kawaguchi, and T. Watanabe, Enzymatic Synthesis of a Capsinoid by the Acylation of Vanillyl Alcohol with Fatty Acid Derivatives Catalyzed by Lipases, Biosci. Biotechnol. Biochem., 66 (2), 319-327 (2002). カプシノイドはトウガラシ果実から新たに見出された物質群であり、カプサイシン類と同様の生理活性を持つが、辛味がほとんどないので最近注目されている。古旗らは触媒にリパーゼを用いた酵素法によるカプシノイドの効率的な合成法を確立した。

また、微生物生産学研究室からの論文は、N. Abe, T. Arakawa, K. Yamamoto, and A. Hirota, Biosynthesis of Bisorbicillinoid in Trichoderma sp. USF-2690; Evidence for the Biosynthetic Pathway, via Sorbicillinol, of Sorbicillin, Bisorbicillinol, Bisorbibutenolide, and Bisorbicillinolide, Biosci. Biotechnol. Biochem., 66 (10), 2090-2099 (2002). かびの生産するビスルピシリノイドは生理活性、化学構造、生合成などの観点から注目を浴びている化合物群である。阿部らは安定同位元素を用いて、ソルピシノールからビスルピシリノイド類が生合成されることを明らかにした。

BBB論文賞は、過去一年の間にBioscience, Biotechnology, and Biochemistry誌に掲載された全論文のうち優れた論文（全体の3%以内）が表彰される。

### 高性能ハイスループット解析法の開発で奨励賞を受賞

薬学部薬品分析学教室 加藤 大 講師



薬学部薬品分析学教室（豊岡利正教授主宰）の加藤大講師が本年度の日本分析化学会中部支部の奨励賞を受賞した。この賞は中部・北陸地域に在籍する若手研究者で、分析化学に関する独創的な研究を発表し、将来の発展を期待し得る研究者に授与される。

加藤講師は平成15年8月20日（水）～21日（木）にポートヒル芳泉で開催された第22回分析化学中部夏期セミナーにおいて、受賞の対象となった「生体分子を利用した高性能ハイスループット解析法の開発」という発表を行った。加藤講師には賞状が贈られた。

### 腫瘍新生血管傷害療法の開発で博士論文賞を受賞

薬学研究科博士課程修了 浅井 知浩 君



平成13年度薬学研究科博士課程修了の浅井知浩君（指導教員、薬学部奥直人）が本年度の日本薬剤学会製剤セミナーにおいてPostdoctoral Presentation Awardを受賞した。この賞は過去3年間に学位を取得した者から選ばれる。浅井君は平成15年7月14日（月）～16日（水）にかずさアカデミアセンターで開催された同セミナーにおいて、受賞の対象となった「新規標的化ペプチド修飾リポソームによる腫瘍新生血管障害療法」という発表を行った。浅井君には賞状が贈られた。



## 研究助成の採択

### 平成14年度 財団法人ノバルティス科学振興財団 研究奨励金

研究題目「植物ポリケチド合成酵素の精密機能解析を基盤とする非天然型新

規ポリケチドライブラリーの構築」

薬学部生薬学教室 講師 阿部郁朗

### 平成15年度 厚生労働省がん研究助成金

研究題目「環境中の新しい変異原・発がん物質の検索とその生物活性」

薬学部薬品資源学教室 助教授 糠谷東雄

### 平成15年度 中部電力基礎技術研究所 国際交流援助

研究題目「ゾルーゲル法を用いたタンパク質包含キャピラリーカラム、マイクロチップによるオンラインマイクロリアクターの開発」

薬学部分析化学教室 講師 加藤 大

### 平成15年度研究助成金 ソルト・サイエンス研究財団

食塩感受性高血圧におけるパラセリン-1の関与」

薬学部産業衛生学教室 助手 五十里 彰

### 財団法人野口研究所 2003年度Noguchi Fluorous Project研究助成金採択

研究題目「フルオラス・タグ法による抗シアリダーゼ活性を持つシアル酸誘導体の効率的合成研究」

薬学部薬化学教室 助教授 池田潔

### 平成15年度 (財)日本環境整備教育センター 浄化槽に関する調査研究助成

研究題目「合併処理浄化槽における環境ホルモン

様物質の汚泥吸着とその微生物分解に関する調査研究

環境科学研究所 教授 岩堀 恵佑、教授 横田 勇、助手 宮田 直幸

### 平成15年度(財)クリタ水・環境科学振興財団 研究助成(一般研究)

研究題目「cis-1,2-ジクロロエチレン(DCE)とビニルクロライド(VC)を同時分解可能な嫌気性集積微生物群の菌叢解析と主要構成微生物の役割評価」

環境科学研究所 教授 岩堀 恵佑、助手 宮田 直幸

### 平成15年度ニッセイ財団 研究助成(一般研究)

研究題目「合併処理浄化槽における環境ホルモン様物質の挙動解明とその水環境への影響評価

環境科学研究所 教授 岩堀 恵佑、教授 横田 勇、助手 宮田 直幸

### 国際学会旅費助成の採択

2003年Controlled Release Society Student Travel Grant Award

演題「Intracellular distribution dynamics of cationic lipid-mediated double-stranded RNA in cells by using confocal laser scan microscopy」

薬学研究科修士2年 米澤 正(医薬生命化学教室、指導教員 奥直人)

## 研究室・ゼミ紹介

### 医療に役立つ微量分離分析法の開発をめざす

薬学部 薬品分析学教室

昨今のきびしい経済情勢の中、研究成果の事業化・特許化が叫ばれ、薬学の中核をなしてきた創薬研究においてもその成果の具体的な提示が求められています。薬学における分析化学もまた時代の流れには逆らえず、新規な分析法の開発とともに実用性の高い応用研究が望まれています。しかしながら基礎研究の発展がなくして応用研究の進展はあり得ないと思います。このような考えから当教室では、生体機能性分子の微量分離分析法に関して、基礎研究から応用研究まで、幅広く取り組もうとしています。具体的にはマイクロチップやキャピラリー-電気クロマトグラフィ-などのハイスループット分析を可能とする機能性分離基剤の開発研究や蛍光・化学発光・質量分析法などの高感度検出法を用いた超微量分析法の開発研究を実施しています。更にこれらの研究によって得られた成果は、医薬品の光学異性体分離検出や病気の診断法へ適用することを目指しています。また、日本の大学を世界最高水準の研究拠点に育てるため、文部科学省が研究資金を重点配分する「21世紀COEプログラム」に、本学の「健康長寿学術研究」が採択されていますが、当教室も本研究を推進すべく分析化学的な側面から協力しています。

現在の教室のメンバーは教員3名(教授、助教授、講師、助手は欠員)、大学院生7名(内2名は、中国吉林省からの留学生)、研究生1名、学部4年生6名です。総勢17名と弱小教室ではありますが、特異的・高感度・高分離分析法の開発・応用を目指し、ヤングパワーで日夜研究に励んでいます。

当教室の研究テーマ、最近の研究成果については、薬学部ホームページ(<http://w3pharm.u-shizuoka-ken.ac.jp/~analchem/>)に掲載しております。教室の行事としては、例年春に教室員親睦のためにバーベキュー大会を、秋には研究室旅行を行っています。その他、学生達は、定期的にはスポーツや飲み会などにより互いの親睦を図っております。

分析化学は地味な学問であり、とかく敬遠されがちですが、あらゆる分野の律速段階であることも事実です。薬学においては、全国的にみて分析化学関連の研究者が減少傾向にありますが、今後この分野に多くの若い研究者が参画してくれることを望んでいます。また学部学生、大学院生には、薬学の知識や技術を取得するだけでなく、医療の担い手の一員としての自覚を持ち、人間性を高め国際的視野を身につけ、社会に貢献できる人材となってくれることを願っています。

(豊岡利正)



### ITを利用した遠隔講義システムの試験運用を開始

経営情報学部では遠隔講義推進委員会を設置し、ITを利用した遠隔講義システムを検討してきたが、今年度、県大学室の社会人学習推進事業として、沼津、浜松に整備する。既に回線は設置済みで、主要機器も10月中には整備される見込みである。来年度からの本格稼働を目指し、今年度は試験的に県立大学の沼津エクステンションセンターにおいて大学院ビジネス講座のうち「情報システム論」を浜松市の静岡文化芸術大学との間を遠隔講義システムで結び遠隔講義を行なう。今後、大学、静岡市内にも拠点を設置し、公開講座、大学間連携による共同授業等の利用につなげていく予定である。



# 大きな野望をもった小さなゼミ

・・・社会貢献プロジェクト進行中！・・・ 国際関係学部 津富 宏 ゼミ

今年誕生したばかりの私たちのゼミは、3年生5名と留学中の学生1名で行われています（留学中の学生にもちゃんとゼミの連絡が行っています）。ゼミは、全員でひとつの「社会貢献」をすることを目標としており、現在、在日外国人の子どもたちと日本人の子どもたちを対象としたキャンプを実施して、友達になってもらうという計画を立案中です。意外と大掛かりな計画ですので、実現は来年になってしまうかもしれませんが、着々と準備を進めています（来年のゼミ生も何か企画してくれるといいな）。

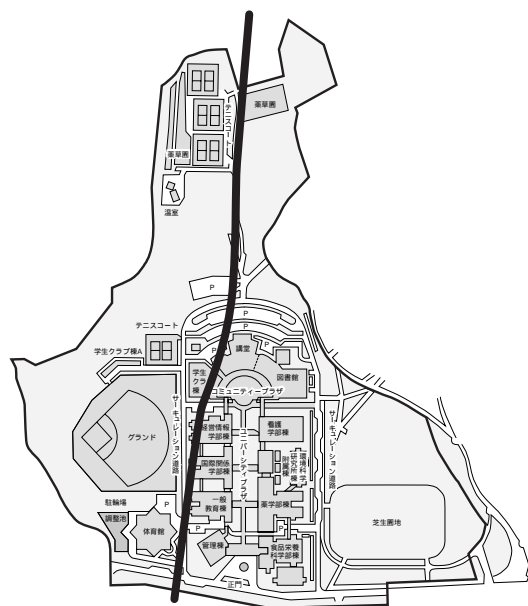
個人の卒論も、それぞれに課題を決めて、周りからアドバイスをもらいながら取り組んでいる最中です。先生の専門は犯罪学や評価研究ですが、元は少年院の教官で、海外で技術協力もしたこともあることから、ゼミ生には、犯罪防止、在日外国人の犯罪、児童福祉、発展途上国の教育、ODAの評価などと、いろいろな興味、意見のある人が集まっているため、とても深い話し合いができ

ます。

そのほか、ゼミ生それぞれが興味を持っている機関や施設（例えば、児童養護施設や警察）を訪問する計画というまじめな計画や、花火を見に行ったり、ゼミ生の誕生日を祝う楽しい計画もあり、ゼミ内の「コミュニケーション」は高まっています。他のゼミの人もウェルカムです。

私たちのゼミは人数があまり多くないため、アットホームな感じで行われています。意見交換も活発に行われているのですが、このゼミでしか味わえないほのぼの感も存在していて、とてもいい雰囲気です。普段は学生が自由に意見を言い合っており、行き詰ってきたら、先生がさりげなくアドバイスをしてくださいます。始まってから2ヶ月がたち、一人一人のキャラクターが確立されてきたので、毎回ゼミが始まるのがとても楽しみです。各自のキャラは、私のイラストを見てください。

（国際関係学科3年 藤江京子）



## 静岡・清水両市の合併で県大も一つに

平成15年4月1日に静岡市と清水市が合併し新静岡市が誕生しました。県大の敷地も両市に跨っていましたが、これで晴れて静岡市のみということになりました。しかし、静岡市が政令指定都市となった場合には、静岡市B区（仮称）と旧清水市の区に分かれてしまうため、静岡市に県大の敷地すべてを静岡市B区に編入していただくよう要望しています。

## 院生からのメッセージ

# 「県大雑感」

経営情報研究科M1 白井 彰

### （1）はじめに

定年退職して半年が経ち、大学生活が始まって3ヶ月を迎えようとしている。余り普通でない、人生の黄昏を歩み始めているが本人には特別という感覚がない。しかし学生から大学の職員と間違えられ、中には礼儀正しく、挨拶してくれる若者もいる。時には気恥ずかしく、このような礼儀正しい子女を育て挙げられた親御さんを羨ましく思う時がある。若い世代の人たちと一緒にいるということは、それだけで活性化される何かがあるように感じている。

### （2）仲間たちのこと

次は予想しなかった大勢の留学生の仲間たちである。院生室には、中国、台湾、ベトナムからの留学生の諸君が同居している。背中越しに聞こえてくる中国語を聴いていると、ときどき台湾の工場に駐在していた時代のオフィスに、また舞い戻った錯覚に襲われることがある。さらに授業時間にふと周りを見渡してみると、自分1人が年寄りであるだけでなく、唯一の日本人であることに気がつく。その場の会話が日本語であることを除けば、自分が外国の大学に留学しているような気にもなるから面白い。先生の中には、留学生が書いたレジメの日本語表現の誤りをきちんと直される先生もおられる。ときには煩わしく感じられるかもしれないが、これが本人にとって一番勉強になる。米国の工場に勤務していたとき、同僚のビルによく英語の言い回しと書き方を注意された。時々むっとすることもないわけではなかったが、今となってみれば自分のためになったと正直思い返している。

### （3）異文化との共生

バブルのはじけた日本に帰国してまず気づいたことは、私の住む地方都市でも外国人労働者の増えたことであった。たとえば私の住む小さな町のカトリック教会は高齢化で信者数が減り、以前は教会の存続が危ぶまれる状態であった。しかし今ではブラジル人とフィリピン人の信者が多数を

占める。月に一度はポルトガル語のミサがもたれ、教会に活気が戻った。いま海外から日本に来て働いたり勉学に取り組む、異なる文化と習慣を持つ人たちの共生が避けられない時代になったと感じている。これからの日本を背負って立つ若いジェネレーションが、より寛容な異文化に対する受容性を身につけることで、日本の社会はこれからもっと世界に開かれた社会になると自分は思っている。そしてその社会はいまよりもっと活気があり个性的で、性別や年齢の制約がなく、創造的な人間が活躍する社会になると期待している。とくに若い人が海外に出掛け、ある期間現地のコミュニティに身を置いてみることで、開かれた社会のもつ重要性を実感してもらえると信じている。

### （4）大学への期待

私にとって大学のイメージは「港」である。社会という「外洋」に乗り出す卒業生という「船」が、出航前に給油しエンジンを整備する「寄港基地」に近い。かつて私は北海道の港からはるばる、津軽海峡を越え、本州の企業に向けて初航海した。その後何度となく、ある時は仕事のアイデアに窮して、あるときは会社人生に閉塞を感じて、大学の図書館や研究室に「寄港」を繰り返した。いまは新たな寄港地に、老朽化した船体を横たえている。願わくば、外洋で活躍した船があまり老朽化しないうちに、オーバーホールの寄港ができるよう港の機能がもっと整備されると良い。また外国船がさかんに寄港して、国際港として港が活性化すると良いと思う。

### （5）最後に

管理棟のロビーに学割の自動発行機があると聞いて、早速使用してみた。夏休みにこの券を使用して、北海道へ両親の墓参に出かけるつもりである。久しぶりに母校にも「寄港」してみたいと思う。いま学生である毎日の「気恥ずかしさ」と「充実感」、その双方を大切にきて来るべき就航の日に備えオーバーホールに専念したい。この県大が第2の「母港」となる日が遠くはないと信じて。



# 図書館だより

## 平成14年度後援会助成図書報告

平成14年度も学部後援会から図書を寄贈していただきました。

各学部後援会からの助成金200万円により、図書712冊、雑誌16種及び新聞9種等を寄贈受け入れしました。このなかには学生からの希望図書も含まれています。

これとは別に薬学部後援会から185冊、国際関係学部後援会から230冊、経営情報学部後援会からは50冊の図書が寄贈されました。

寄贈された図書は、標題紙に「後援会様寄贈」印を押印して閲覧室書架に配架されています。

## 本学教員からの著書寄贈

先生の著書を寄贈していただきました。

(平成15年3月以降)

図書館2階自由閲覧室の教員著作コーナーに配架してあります。

### 東郷吉男 名誉教授

・からだことば辞典 東京堂出版 2003年

小島 茂 教授 芹沢幹雄 助教授

(経営情報学部)

・ニュースポーツと大学の地域づくり

三恵社 2003年

松田正巳 教授 奥野ひろみ 講師(看護学部)

・変わりゆく世界と21世紀の地域健康づくり

やどかり出版 2003年

## 閲覧中の貴重品は無料セーフティーロッカーに

快適な図書館利用をしていただくために、職員が館内を指導巡回していますが、その時に財布等貴重品を放置して席を離れている利用者を見受けます。

盗難事故を誘因することになりかねませんので閲覧中の貴重品の管理には玄関ホール設置のセーフティーロッカーを活用してください。利用時に百円硬貨が必要ですが、利用後には戻ります。

## 薬学部後援会より図書館に学生用自然科学系図書の寄贈

自然科学領域の進歩が著しく、学部生・大学院生が図書館を利用して勉学する際に、大学図書予算枠に限りがあり、次々と発刊される新刊書を購入し、学生に提供できないことが教員はもとより附属図書館の大きな悩みであった。県立大発足から薬学部後援会から本学図書館に毎年100万円が図書購入費として寄贈されてきましたが、平成14年度には薬学カリキュラムに必要な参考書を中心に185冊(約100万円)、平成15年度に150冊(総額125万円)の自然科学系新館図書の寄贈を受けました。6月初旬、関係者が立会い、贈呈式(写真)が行われた。昨年寄贈された図書を含め、学生がレポートを作成、試験勉強する際に、十分ではないが一通り調べる環境が整い、これら図書が有効に活用されることを期待している。レポート作成、試験勉強の時期には多数の学生が同時に図書を利用することが多いため、必修科目に関連した参考書類は複数必要であるとの強い学生の要望があることから、後援会から次年度以降も援助を継続する旨の連絡を戴いており、学生諸君がぜひこれら図書を利用して学力を付けるよう教職員一同期待している。

(薬学部図書館・情報システム委員長 三輪 匡男)



# 図書・雑誌の探し方

～横断検索システムで学内外の資料が検索できます～

図書館OPACを使っていただいていますか。県大のOPACには横断検索の機能があり、ちょっとした検索のコツや表示のみかたを覚えておくと、大変便利に利用することができます。是非、活用して学習研究に役立ててください。

## 1 検索



検索語を入力して「検索実行」ボタンをクリックします。

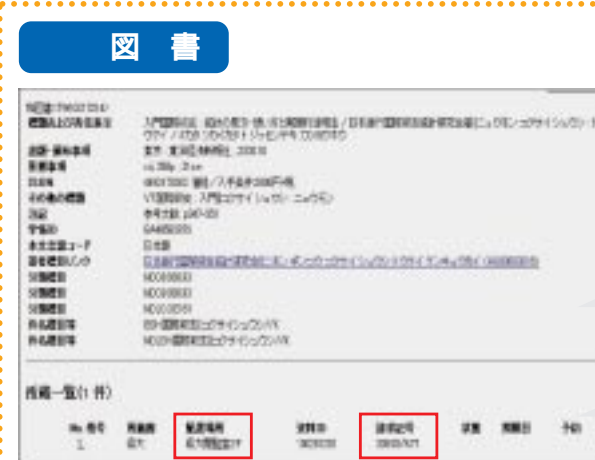
- ・書名、著者名など、わかっている情報を入力します。
- ・書名全体でも書名中の単語からでも検索できます。
- (例)「レポートの書き方」  
「レポート」「書き方」  
「レポート」「カキカタ」...など
- ・2つ以上の単語を入力するときはスペースで区切ります。
- ・欧文タイトルの省略形しかわからないときは、「env\* sci\* tech\*」のように入力します。

## 2 一覧表示



見たいタイトルをクリックします。

## 3 詳細表示：3つのパターンがあります。



「配置場所」と「請求記号」を確認します。

雑誌情報(図書の情報)

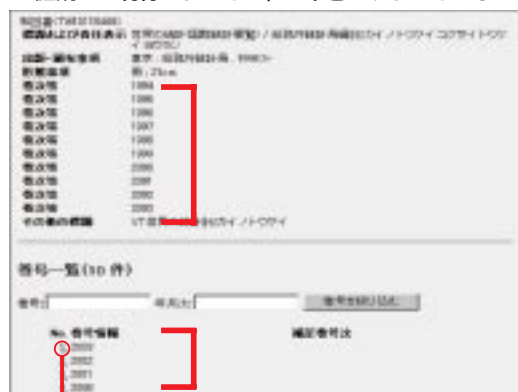
所蔵情報(配置場所など)

「配置場所」と「請求記号」で資料の配架場所がわかります。



### 図書の一部

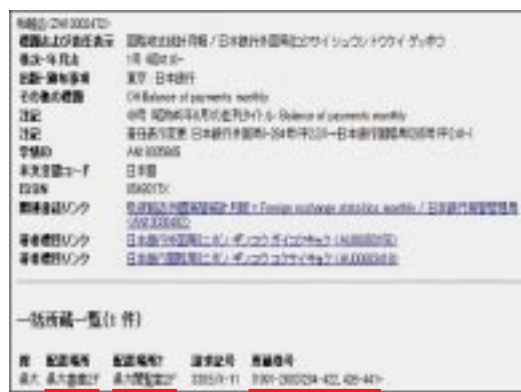
: 継続して刊行されるもの、上下巻セットのものなど



クリックすると、配置場所が表示されます。



### 雑誌



バックナンバーの配置場所

新着の配置場所

県大で所蔵している範囲 (所蔵年) 所蔵巻号 + 「+」記号は継続して受け入れていることを示します。

## 4 図書・雑誌を取りに行く

請求記号 350.9/So 39/2003

350.9
So 39
2003



現新	学生文庫(ラベル1段目が数字以外の図書。2階閲覧室の学生文庫コーナーにあります。)
1246	

資料は請求記号順に並んでいます。(一部例外があります。)

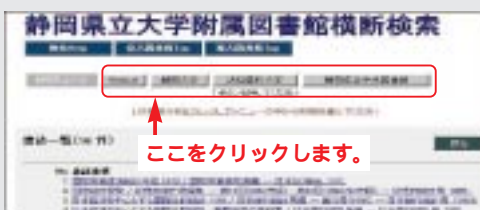
配置場所	並び方
1階(閲覧室/書庫)	請求記号順に並んでいます。カウンター前の書架は参考図書コーナーです。一般図書はさらに奥の書架にあるので間違えないよう注意してください。
2階(閲覧室/書庫)	請求記号順に並んでいます。(自由閲覧室の資料はコレクションごとの請求記号順です。)数字以外の記号の図書は学生文庫コーナーにシリーズ名ごとに並んでいます。
3階(閲覧室/書庫)	自然科学系の洋雑誌は雑誌名のアルファベット順に並んでいます。それ以外の洋雑誌は請求記号順です。
地下(書庫)	大学や研究所の紀要・研究報告が発行所の五十音順に並んでいます。

配架の詳細は、「図書館利用のてびき」p.2-7,p.12-13を参照してください。

## 5 県大にないときは...

ILLで、他大学図書館に複写や貸借を依頼することができます。

横断検索でWebcatなどを検索してみよう。



インターネットで他館の所蔵を検索してみよう。

Webcat (全国の大学図書館の所蔵がわかるデータベース)  
<http://webcat.nii.ac.jp/>  
 NDLP-OPAC (国立国会図書館) <http://opac.ndl.go.jp/>  
 BLPC (英国図書館) <http://blpc.bl.uk>  
 静岡県立中央図書館、静岡市立図書館 etc...

電子ジャーナルが利用できないか確かめてみよう。

EBSCO host, ScienceDirect, Springer LINK, Brackwell Synergy, American Chemical Society, Nature姉妹誌, Oxford University Press などが利用できます。図書館ホームページにリンクがあります。

# 予想される東海地震への備えを確認 地震防災訓練に多数の学生、教職員が参加

毎年9月1日「防災の日」は、静岡県をあげて予想される東海地震を想定した地震防災訓練を行っており、本学においても9月1日、早朝の情報伝達訓練により訓練が始まると教職員は直ちに県大に向かった。8時30分には訓練警戒宣言が発表されたのを受け、廣部学長を本部長とする県立大学地震災害警戒本部を設置するとともに、自衛消防隊が編成された。

10時には訓練地震が発生、学内に居合わせた教職員、学生は、地震の揺れがおさまるのを待って避難誘導救助班の指示に従い、グラウンドへ避難した。グラウンドでは廣部学長による訓示に引き続き、訓練参加者による消火器を使った初期消火訓練、消火工作班による屋外消火栓放水訓練、さらには防災ボランティアサークル「防'Z」の指導・協力を得て、人工呼吸や心臓マッサージなどの救命救急訓練が行われ、参加者は「気道の確保や心臓マッサージの力加減など、練習をしておかないと、いざという時に

は救命できないことが分かった。」などと訓練の重要性を再確認していた。10時30分からは、安否情報確認訓練が行われ、災害対策本部から学生へ一斉にメール送信を行うと、百数十名の学生からメールによる安否情報の回答があった。

また、自衛消防隊訓練では、体育館の地下貯水槽に蓄えられた雨水をろ過し、飲料水にする訓練、非常用発電機作動訓練、エレベータ緊急停止・脱出訓練を行うなど、自衛消防隊員は緊張しながらも真剣に訓練に取り組んだ。

